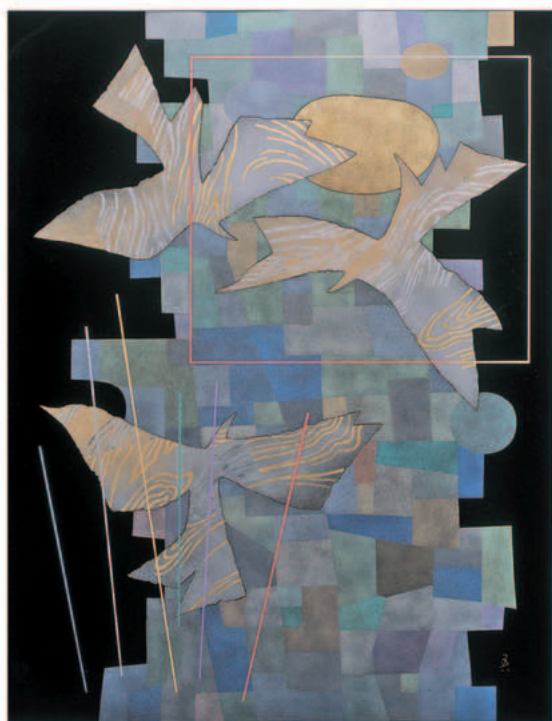


# 石川県立美術館だより

平成18年6月1日発行 第272号

## 第37回 日展 金沢展

会期:5月27日(土)～6月18日(日) 会期中無休



曜 三谷吾一



飴釉壺「勝ち犬」 大樋長左衛門

### 目次

第37回 日展 金沢展	2	貸し出し中の所蔵作品	6
甲冑と陣羽織、屏風絵の美	3	レポート(版画体験講座)	7
主な展示作品、映像ギャラリー	4	6月の行事案内、企画展示室	7
講演会記録(小林敬生氏)	5	ミュージアムショップ通信	8
夏休み親子鑑賞会、県美Q&A	6	所蔵作品紹介、次回の展覧会	8

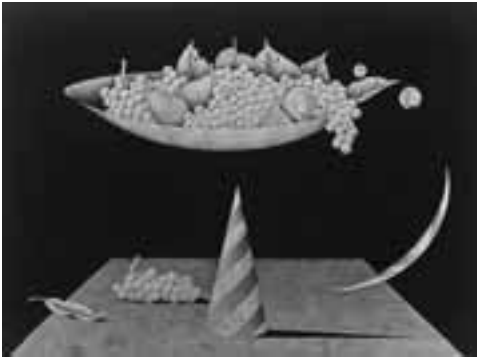
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

第3～9展示室

# 第37回 日展 金沢展

5月27日(土)～6月18日(日) 会期中無休

主催 / 社団法人日展・北國新聞社・富山新聞社・テレビ金沢  
石川県・石川県教育委員会・金沢市・金沢市教育委員会



浮游 角康二(漆・特選)

日展は長い伝統を持ち、所属作家層の厚さと優れた作品で知られ、日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の日本美術の各分野を網羅し、わが国最大・最高水準の総合美術展として親しまれています。

日展は明治四十年の文部省第一回美術展として発足以来、九十四年の歴史を持ち、この間、その時々々の改革を重ねながら、常にわが国美術界の中核として日本美術文化に貢献してきました。今回は、昭和四十四年の改組から数えて三十七回目の展覧会となります。

金沢展は二年ぶり十九回目の開催です。東京の本展力作の中から、日本芸術院会員、日展理事、評議員、会員などの秀作と、内閣総理大臣賞、日展会員賞、特選(石川県関係では日本画で佐藤俊介、平木孝志、彫刻では加藤里奈、工芸美術で大樋年雄、角康二)などの受賞作品合わせて約三百点を選抜して基本作品とし、これに石川県関係の新人選二十二人を含めた百一十三人の入選作品を加えて、総計約四百三十点を同一のものと展示します。

本展の開催によって豊かな芸術作品に接する機会を提供し、芸術文化の向上、情操教育の振興に役立てば幸いと念願しています。

主な出品作家(五十首順・敬称略)

《日本画》

岩澤重夫、大山忠作、佐藤太清、白鳥映雪、鈴木竹柏、高山辰雄、中路融人、中町力、滝川真人

《洋画》

円地信二、清原啓、庄司栄吉、中山忠彦、塗師祥一郎、平松謙、松本昇、村田省蔵、森田茂

《彫刻》

雨宮敬子、雨宮淳、石田康夫、川崎普照、銭亀賢治、得能節朗、富永直樹、長江録弥、中村晋也、野々村一男、野島耕之介、橋本堅太郎

《工芸美術》

青木龍山、井波唯志、今井政之、大樋長左衛門、奥田小由女、河合誓徳、高橋節郎、蓮田修吾郎、三谷吾一

《書》

小林斗盞、杉岡華邨、村上三島

作品解説日程



水の無い河を泳ぐように 加藤里奈(彫刻・特選)

月日	時間	月日	時間	月日	時間	月日	時間	月日	時間
6月16日(金)	10:00 11:00	6月14日(水)	10:30 12:00	5月29日(月)	10:30 12:00	5月31日(水)	13:00 14:30	6月2日(金)	14:30 16:00
日本画 仁志出龍司	洋画 政木良一	工芸美術 小西啓介	洋画 奥谷清峯	日本画 滝川真人	工芸美術 大樋長左衛門	洋画 円地信二	日本画 石田陽介	洋画 端名清	書 山瀬晋吾
6月12日(月)	10:00 11:00	6月8日(木)	10:00 11:00	6月6日(火)	10:00 11:00	6月8日(木)	10:00 11:00	6月6日(火)	10:00 11:00
日本画 平木孝志	洋画 西房浩一	彫刻 谷村俊英	工芸美術 三谷吾一	書 高廣幸悠	日本画 中町力	洋画 松本昇	洋画 堀井聖水	書 高廣幸悠	書 山瀬晋吾
6月8日(木)	10:00 11:00	6月6日(火)	10:00 11:00	6月2日(金)	10:00 11:00	5月31日(水)	10:00 11:00	5月29日(月)	10:00 11:00
洋画 三谷吾一	工芸美術 堀井聖水	洋画 井波唯志	工芸美術 佐藤俊介	洋画 山瀬晋吾	日本画 中町力	洋画 松本昇	工芸美術 大樋長左衛門	日本画 滝川真人	工芸美術 大樋長左衛門

観覧料

個人	団体(20名以上)
一般・大学生 1,000円	一般・大学生 800円
中・高生 700円	中・高生 500円
小学生 400円	小学生 300円

石川県立美術館友の会は、正面受付で会員証を提示されると、団体料金になります。



capsule 佐藤俊介(日本画・特選)



磯 平木孝志(日本画・特選)



Mesa Vessel「尊崇」 大樋年雄(陶・特選)

# 今月のコレクション展示室

(前田育徳会展示室)

特集

## 甲冑と陣羽織(前期)

5月25日(木)~6月18日(日)

戦乱の絶えない戦国時代になり、これまで作られてきた甲冑の様々な要素を組み合わせて、総合的に構成され生まれたのが当世具足です。具足とは、装具の完備した甲冑という意味であり、大鏡、兜丸、腹巻などがそれだけに成り立っていたのに対して、当世具足は兜・面具・胸・袖と籠手・臍当・佩楯の七具などをすべて皆具している点が特徴です。

陣羽織とは、武士が合戦の時、具足の上に着用した外被です。室町時代中期頃より用いられ、具足羽織や陣羽織などと呼ばれました。形は一般に袖なしのもものが多く、広袖のものもあります。最初は普通の羽織を陣中で着用していましたが、次第に威厳を示すため人目を引く羽織が作られるようになりました。戦場において寒さや雨露から身を守るため、そして動き易さを求めて、また存在誇示や応接の際に威厳を示すために、当時日本に舶載されたラシャやビロードなどの新しい素材を使用して、南蛮的嗜好が強く反映したデザインのものや、奇抜ともいえる自由な意匠による陣羽織が作られました。

今回は、前田家歴代藩主所用の甲冑・陣羽織とともに、初代藩主利家の小特集を企画し、利家の画像(写)、甲冑、馬聯、末森合戦図絵巻などを含む二十六点を展示します。

重文 金小札白糸素懸威胴丸具足は天正十二年(一五八四)に前田利家と佐々成政が戦った末森合戦の際に利家が着用していたものといわれ、末森合戦を題材にした絵には必ず利家がこれを着用した姿が描かれています。兜も胴も全体に漆を塗り金箔を押ししたもので、桃山時代らしいらしい雰囲気を持っている具足です。平成十四年の「利家とまつ」展以来の展示となります。

引き続き「屏風絵の美」の後半を開催します。今回は、「風俗画」に含まれる作品八点をご覧頂きます。当館では昨年「サントリー美術館名品展」を開催しましたが、サントリー美術館では、「生活の中の美」を基本テーマに日本の美術・工芸品を収集し、展示されていますが、このように日本の美術は、日本人の生活に密着したものと言えます。室内の調度品である、屏風に装飾を施し生活を彩ることはその典型であり、また日本の絵画史を語る上でも重要です。

今回は、作品に描写されている人々に注目してご覧いただきたいと思います。「風俗画」は暮らしを彩る年中行事や社寺の祭礼などを主題に、そこに様々な人々が登場します。そこに描かれた人々から、「生きる喜び」が素直に伝わってきますが、それは作品に注がれた作者の心であり、今日の私たちにも共感できる感覚ともいえます。それでは作品を紹介します。

祇園会図 伝長谷川久藏 桃山 十六世紀  
京都八坂神社の祭礼である祇園祭を描いた絵巻の断簡で、母衣武者行列の場面です。信長公より利休が拝領した旨の千宗旦の添書があります。祇園囃子とともに祭りに興ずる人々の熱気が伝わってきます。

賀茂競馬鞍馬火祭図屏風 江戸 十七世紀  
賀茂競馬は上賀茂神社の神事として五月五日に開催され、鞍馬火祭は京都の三大奇祭ともいわれる鞍馬の由岐神社の祭礼で、十月二十二日に開催されます。京都洛北の著名な祭礼が春秋の二双として描かれた珍しい作品で緊張感あふれるエネルギーが漲っています。

その他、源頼朝が富士山麓で催した狩獵で、仁田四郎忠常が大猪を仕留めたという故事を描いた富士巻狩図屏風、妓楼における遊樂の様を描いた邸内遊樂図屏風、胡蝶・迎陵頻・太平楽の舞やその観者を機知的な構図で描いた舞楽図屏風、浅野川川筋の景観を、四季の変化とともに描いた浅野川四季風景図などを展示します。

# 今月のコレクション展示室

(第2展示室)

特集

## 屏風絵の美(後期)

5月25日(木)~6月18日(日)



賀茂競馬図屏風

# 今月のコレクション展示室 主な展示作品

5月25日(木)~6月18日(日)

= 国宝 = 重要文化財 = 重要美術品  
= 石川県指定文化財



色絵雄雉香炉(右)  
色絵雌雉香炉(左)  
野々村仁清

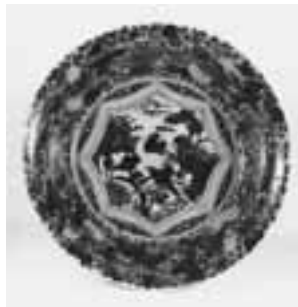
一般 350円	個	観覧料
大学生 280円		
高校生以下は 無料	人	
一般 280円	団体 (20名以上)	
大学生 220円		
高校生以下は 無料		

第3~6展示室は、5月27日(土)から6月18日(日)まで第37回日展金沢展会場となっております。通常の展示は、6月22日(木)からですが、次号でご案内いたします。

- 前田育徳会展示室
  - 特集 甲冑と陣羽織(前期)
  - 金小札白糸素懸威胴丸具足
  - 黒塗六十一間甲冑
  - 日の出に立波文陣羽織
  - 牡丹獅子文陣羽織
  - 末森合戦図絵巻
  - 初代利家所用
  - 三代利常所用
  - 五代綱紀所用
  - 七代宗辰所用
- 第1展示室
  - 色絵雄雉香炉
  - 色絵雌雉香炉
  - 野々村仁清
  - 野々村仁清
- 第2展示室(古美術)
  - 色絵布袋図平鉢 古九谷
  - 色絵百花散双鳥図平鉢 古九谷
  - 青手樹木図平鉢 古九谷
  - 青手桜花散文平鉢 古九谷
  - 特集「屏風絵の美(後期)」
  - 祇園会図
  - 賀茂競馬鞍馬火祭図屏風
  - 邸内遊楽図屏風
  - 浅野川四季風景図
  - 伝長谷川久藏
  - 佐々木泉景



邸内遊楽図屏風部分



色絵百花散双鳥図平鉢

## 映像ギャラリー

今月の映画・ビデオ

6月 4日(日) 月例映画会	
「重要無形文化財 輪島塗に生きる」	(35分)
6月11日(日) ビデオ鑑賞会	
「正倉院宝物18 漆胡瓶の謎」	(30分)
「正倉院宝物19 幻の織 錦の綾」	(34分)
6月18日(日) 月例映画会	
「伝統に生きる 加賀時絵」	(28分)
6月25日(日) ビデオ鑑賞会	
「正倉院宝物19 幻の織 錦の綾」	(34分)
「正倉院宝物20 謎の天平美人」	(34分)
いずれも入場無料	

今月の映像ギャラリーは、上記の内容で行います。  
ここでは、その中の「輪島塗に生きる」を取り上げてみたいと思います。  
漆の原木が豊かであった能登の山々からは、豊富な漆液がとれ、これまで漆製品が多く作られてきました。とくに

輪島において、すぐれた漆塗りの作品が生み出され、『輪島塗』として全国に知られてきました。この映画では、輪島塗の椀の制作工程を順にたどりながら、一つの作品が、熟練した職工たちの巧みな技術によって、いかに多くの手間をかけて作られているかを紹介しています。

その作業はまず、原木を椀の原型に割っていく型はつりから始まります。はつり師は、木を見た瞬間に椀がいくつとれるかを判断し割っていくのですが、その素早さ、正確さには驚かされます。その後、十分に乾燥させた椀は、木地師の手によって椀の形に仕上げられていきます。輪島の椀の木地は、原木を横目に使い薄く挽くというところに特徴があり、ほとんど向こう側が透けて見える程に挽く高度な技術が要求されます。それが終わると漆を塗る工程に入りますが、下地部屋と上塗部屋にわかれ、ここで36から60毛の工程を経てできあがるのです。輪島塗が丈夫で長持ちするといういわれの一つは、この塗りにおいて、漆に地の粉といわれる黄土(珪藻が主成分で酸や熱に強い)を混ぜ合わせて塗られているからといわれています。適度な湿気を与えた漆が定着した椀は、最後に加飾の職人の手にわたり、金や銀を使った装飾が施され、ようやく完成に至るのです。

● 講演会記録 ●

「私と木口木版、  
そしてヒワさんのこと」

小林敬生氏( 版画家・多摩美術大学教授 )



ひわ ぎきたか お  
日和崎尊夫さん( ヒワさん )の版画と出会った頃、私は二紀会の宮永岳彦先生に師事していて、油絵と版画を制作していた。だが、自分が考える

絵画表現の要素を画面にどう問いかけるか、画面空間ってなんだらうと、何がなんだか分からなくなっていた時だった。

そういう時にヒワさんの「KALPA夜」をシロタ画廊で見つけて、「どうやったんだらう、これ」と驚いた。それが木口木版との出会いだった。

だが、版画も一応発表していたし、30ちょっと過ぎでブライドもあったので、すぐヒワさんのところへ行って門を叩くことができず、彼に学んだ柄澤齊君から さびひしに尋ねたりして独学で身につけていった。木口はビュランを使うということすら知らず、ましてビュランを研ぐことも版木を磨くことも知らなかった。画材屋で買ったまま使って、どうしてあんなきれいな細かい線が彫れるんだと考えていたものだった。

ようやく形になってはきたが、摺りがどうしてもうまくいかず、とうとうヒワさんに教えを願った。国分寺のヒワさんの家に3時に来いということで行ったのだが、いない。新潟から友達の詩人が来て、出かけてそのまま帰ってこないのだと奥さんが言う。勧められて酒を飲んで待っていると晩の7時か8時頃べろんべろんに酔っぱらって帰って来た。私も酔っぱらっていて大喧嘩して帰ってきた。それが初対面だった。

ヒワさんの酒はとにかく大変なものだった。そこらじゅうで人に喧嘩をふっかける。それは日常茶飯事だった。でも、最初は全く飲めなかった。飲めるようになってからもそんなに強い方じゃない、じゃあ、なぜヒワさんがお酒を飲み出したのだらう、あるいは、なぜあんなに飲んだんだらう。

ヒワさんはデカダンスの最後の作家だったという気がする

彼は詩人だった。作品の根底には詩がある。まず詩があって、ああいうふうな表現世界が出来てくる。武蔵野美術大学を卒業して高知に帰り、版画協会展で新人賞をとって、勇躍して東京に戻ってくる。そして「KALPA」というシリーズが始まる。

最初版木を見た時に、「ああ、ヒワさんの作品世界はここにあり」という感じがした。ビュランをぼんと入れてぱっとはじくとああいう痕跡が残る。木との感触というか痕跡の中で作品ができあがっていく。だから下絵も何も無い。同じ方向でヒワさんを追いかけたら、あの作品世界に勝てるわけがないと思った。

知り合った頃ヒワさんは「鑿のみの会」というグループを作って、詩画集『水夢譚すいむたん』を出した。その2年後「鑿の会」でもう一度オリジナル作品を出すことになり、私も誘われて6人で「鑿の会」を再スタートさせた。

それには当時の版画界の状況が関わっていた。

戦後ベネチアビエンナーレなどに、日本の油絵や日本画の大家の作品を持っていっても、全く認められなかったのは対照的に、棟方志功など日本の版画は高く評価された。それで、日本から国際展として発信できるものと考えた時、版画だということ東京国際版画ビエンナーレが始まった。

ところが現代美術が盛んな時期だったので、版表現がどこまで許されるのかという議論が大きくなった。最後は版画をプリントメイキングと考え、メディアとしてとらえるなら、新聞も版画じゃないかというところまで議論が向かった。結局版画の概念が收拾つかなくなって版画ビエンナーレは11回で終わった。

そこで、もう一度原点に戻って版画とは何だらう。版画の面白さ、意味を考えようということで、我々はあえて出版にこだわり年刊の同人誌を出そうと決め、それが5年間続いた。「鑿の会」は、版画をめぐる美術界の動きに対する我々のささやかなテーマだった。

木口は西洋から入ってきた技法だが、私の場合、日本の紙とバレンがあってこそ作品が成り立つ。向こうでは「すり」は印刷の刷を当てるが、日本の版画は摺ると書く。バレンを持った手で摺ると書く。薄くて丈夫な雁皮紙に摺って、表裏を反転して鏡貼りしたりして継いでいくことは、和紙なくしては出来ない。

私は下絵を描くが、それにはこだわらない。彫り始めてから完成するまで1年以上かかるわけだから、物の考え方も変わる。最初ここに鳥を入れようと思ったのが魚になったりもする。イメージはどうしても時間とともに変わっていく。下絵があって、私がいて、版があって、結果、思いがけないものがでてる。

黒と白とで表現された小さな凝縮された木口の世界。それが、本当の木口の良さだし、面白さだと思う。だけどへそ曲がりの私は、残念ながら外へ飛び出したいと思って、だんだん作品は大型化していった。1987年の「蘇生の刻 S62-8」は版木10枚を順に摺って1つの作品にした。

大きくなったら、その先にまだ何かあるんじゃないかと思いついた。それで今の作品のように、彫りあがったものを、さらに彫るという仕事を始めた。最後は何もないみたいな画面が作れたら最高だろと思うている。だが、自分が作った作品を消すことは非常に度胸がいる。だから未だにやっきれない。

(「黒の迷宮 - 凝視の刻」展にちなみ、1月22日に当館ホールで行われた講演内容を、当館の責任で要約したものです。講演は前段に版画史を、後段に小林氏の制作ビデオを交えた多彩な内容でしたが、紙面上、演題部分を要約しました。)

## キッズ プログラム 参加者募集 !!

# 夏休み親子で楽しむ美術館 親子で鑑賞会

親子で楽しむ、作品鑑賞・制作体験のワークショップです。

第1回 べたべた・ころころ スタンプ!

小学校1・2年生

7月25日(火)

対象: 美術に関心のある小学校1・2年生とその保護者(親子参加型なので、必ず保護者同伴)

内容: 展示室で作品鑑賞の後、にがおえスタンプをつくります

時間: 1年生 10:00~12:00

2年生 13:30~15:30

年子の場合は2年生に連名で申込んで下さい

第2回 工芸に挑戦! 小学校3・4年生

7月27日(木)

対象: 美術に関心のある小学校3・4年生とその保護者(親子参加型なので、必ず保護者同伴)

内容: 展示室で作品鑑賞の後、堆漆のお箸をつくります

時間: 13:30~15:30

第3回 日本画に挑戦! 小学校5・6年生

7月29日(土)

対象: 美術に関心のある小学校5・6年生とその保護者(親子参加型なので、必ず保護者同伴)

内容: 展示室で作品鑑賞の後、日本画の材料体験をします

時間: 13:30~15:30



場所 講義室・コレクション展示室

定員 各15組

参加費 材料費(各回で異なりますが、親子あわせて1,000円以内になります。)

申込方法 往復はがき

- ・往復はがきで申し込んでください。
- ・往復はがき裏面に参加希望の子供・保護者の氏名、お子さんの学年、住所、電話番号(連絡先)、希望する行事名を記入ください。
- ・双子等の場合、はがき一枚に連名で申し込みください。
- ・返信はがき表面に返信先(住所・氏名)を記入。
- ・返信はがき裏面にはこちらで印刷をしますので何も書かないでください
- ・応募者多数の場合は抽選(返信はがきで通知)になります。

応募締切 7月1日(土) 消印有効

問い合わせと申し込み先

石川県立美術館 普及課「親子で鑑賞会」係

〒920-0963 金沢市出羽町2-1

a 076-231-7580

## 美術館 Q & A

Q 以前にホールに集まって、18年度に美術館の改修をするという説明を受けました。工事はいつから始まるのですか。(友の会会員)

A 工事に取りかかる時期が、大幅に先延ばしになりました。17年3月にお集まりいただいて皆さんに説明したときには、18年9月ころからお休みに入り、19年の暮れまでの間に改修工事をするといっていました。ところが、現在の状態を確認している段階で、これまでに予想していなかったことが次々とおこり、設計や改修内容などを大幅に見直すことになりました。その結果、今年度中の改修を見送ることとなり、工事は来年度の夏以降に行われることになりました。したがって、今年度の事業はすべて例年の通りに行われ、友の会の皆さんにはこの一年の間じゅう、サ

ービスを提供することができることになりました。間もなく具体的な改修工事の日程が決定することと思います。詳しいことが分かり次第、改めて皆さんにご案内いたします。

### ●— 貸し出し中の所蔵作品 —●

他館への貸し出しは、所蔵品を有効に活用するための美術館の重要な業務のひとつです。現在貸し出されている主な作品は下記のとおりです。

蒔絵住吉図硯箱 1合

展覧会 新輪島市誕生記念展

「輪島と門前 出会い・融和 新たな歩み」

会期 6月8日(木)~7月18日(火)(前期)

会場 石川県輪島漆芸美術館

# ミュージアム レポート

## キッズ プログラム体験講座 版画に挑戦!

いつもは夏休みにあわせての体験講座ですが、今年度はまず浮世絵の展覧会にあわせて4月30日(日)にキッズ プログラム体験講座「版画に挑戦!」を行いました。

木版画多版多色を行うので、彫刻刀の使用について学校で学習済みの小学校5・6年生を対象とし、一日をかけて制作に取り組みました。

当日はロビーにて版画の摺実演が行われており、子どもたちはまず摺の見学をしました。まだ学校では黒一色の版画しか制作したことのない子がほとんどでしたので、たくさんの版をすり重ねて、色鮮やかに摺仕上がる版画にびっくりしていました。見学後、講義室での制作に戻ってからは、各自考えて来た下絵を元に、先ほど見た版等を思い出しながら、下絵をどのように表現するかを考えました。反転させた下絵を版に転写を済ませてからは、彫刻刀の扱いに注意をし、完成を想像しながら、ひたすら彫りに入りました。2時半頃には墨版・色版と各自の図柄に併せた板を完成させることができました。

版ができてしまうと、いよいよ摺です。版に色を入れ、薄い色から摺っていき、最後に墨版を入れたときの嬉しさは格別でした。それでも、一枚刷り上げた後、彫り残し箇所があったところには手を入れ、また、さらにサインを付け加えたり、色を工夫したり、意欲的に取り組み、制作をはじめたときには時間内に全員が完成できるかな?と心配していたのですが、予定通り時間内にそれぞれの作品を完成させました。

今回は5・6年生のみでしたが、夏休みには1～6年生とその保護者対象の、鑑賞と体験を併せたキッズ プログラムを予定しております。夏休みの特集企画「親子で楽しむ美術館」と併せまして、次回もたくさんの皆様の参加をお待ちしております。



## 企画展示室

### 第29回北研写真展

6月23日(金)～6月27日(火) (第7展示室)

東京写真研究会北陸部の会員による年1回の作品展です。本年は「研展」の第91回展に当たる年でもあり、会員一同心を新たに純粋なアマチュアでなければ表現できない個性的でバラエティーに富んだ作品を展示し、北陸の写真文化のレベルアップに寄与すると同時に他の写真愛好者との親睦を深めます。

通称は「北研」ですが正式名は北陸研友会で昭和4年に結成されました。現在は会員49名で今回の出品作品は半切より全紙で額装及びパネル張りで展示する予定です。

入場無料

連絡先 北陸研友会・金沢市野町4-9-13  
内島一郎 方  
a 076-241-2279

### 第17回石川県水墨画協会公募展

6月30日(金)～7月4日(火) (第7～9展示室)

石川県水墨画協会は、平成元年度発足、同2年に第1回公募展を開催し今日に至っております。公募展は石川県内の水墨画諸会派及び一般個人を統合する当協会が行う展示会です。これは、過去の公募展の実績に照らし承認された会員の研鑽の場であると同時に、広く県内より一般公募し、厳正な審査の上入選作品を展示し、水墨画の普及発展に寄与することとしております。従って各会派主宰の作品を始め、会員並びに一般公募の意欲的個性的な表現による、楽しい協会展ならではの作品をご覧いただきたいと思います。

多くの方々のご来場をお待ちしております。

入場無料

連絡先 金沢市三ツ屋町八18-3  
事務局長 笠井宰州(利久)  
a 076-237-6513

## 6月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月日	行事	内容	会場
6/3(土)	美術講座	やまと絵の展開 (村瀬学芸専門員)	講義室
6/4(日)	月例映画会	重要無形文化財 輪島塗に生きる(35分)	ホール
6/11(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物18 漆胡瓶の謎(30分) 正倉院宝物19 幻の織 錦の綾(34分)	ホール
6/18(日)	月例映画会	伝統に生きる 加賀蒔絵「大場松魚・寺井直次・小松芳光」(28分)	ホール
6/24(土)	ギャラリートーク	古九谷名品選 (村瀬学芸専門員)	コレクション展示室
6/25(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物19 幻の織 錦の綾(34分) 正倉院宝物20 謎の天平美人(34分)	ホール

6月の全館休館日は19日(月)～21日(水)です。

年配の男性が大きな鶏の絵をバックに佇んでいます。男性は今年生誕120年の大回顧展が開かれている画家・藤田嗣治です。藤田は戦後フランスに帰化しますが、日本で活躍してときは二科会の大御所でしたし、作者は光風会、さて、どんな関係があったのでしょうか。

かつて、師と仰ぐ中村研一がまだ新婚間もない頃、作者は絵を学ぶために中村宅に泊まり続けたことがあります。物怖じしない性格です。戦後日本人の海外渡航が認められ、高光氏は29年にフランスに行きます。そのとき大胆にも面識のない藤田を訪ね、アパートとアトリエの世話を頼んだのでした。それから親しくなり、交友が始まります。

ある時、藤田と散歩に出かけ、面白いものを見せてあげるといふことで、作者はこの巨大なポスターを知ることになりました。鶏と見えるものは実は石炭なのです。フランス語でCHARBON(シャルボン・炭)と書かれています。なかなかしゃれたデザインです。

作者のフランス滞在は1年間ですが、この後10年ほど展開することになる、白と黒とを主調色に人体を抽象化するという大胆なスタイルの基礎をこの時得るのでした。

滞在中、作者は何気ない市井の一隅や風景など、たくさん写真を撮っていました。その中の1枚に本作の元となる写真があったのでした。偶然に眼にし、懐かしく当時を偲んだのでしょう。現代の女性を中近東やギリシャ、ローマの遺跡をバックに描き、女性美を追求した作者にはめずらしい、晩年の作品です。



## モンパルナスの藤田さん

たかみつ かずや  
高光 一也

明治40年(1907)~昭和61年(1986)

昭和59年(1984)第70回記念光風会銀座展  
縦162.1×横130.3(cm)

〔略歴〕大正14年石川県立工業学校图案絵画科卒業。中村研一に師事。昭和7年第13回帝展初入選。12年第1回新文展に「藁積む頃」で特選。21年金沢美術工芸専門学校の創設に加わり多くの後進を指導。29、30年渡仏。46年、前年の第2回改組日展出品作の「緑の服」などにより芸術院賞を受賞。芸術院会員、文化功労者。昭和61年逝去。

## ミュージアムショップ通信

企画展「広重・北斎・歌麿UKIYO絵展」もおかげさまで大変ご好評のうちに幕を閉じることができました。ありがとうございました。

「石川県で、東海道五十三次全55図が見られるとは思わなかった。」等の喜びの声も沢山いただきました。

また、今回の企画展に合わせて行われた東京からのアダチ伝統木版画技術保存財団の制作摺り実演では、版を重ねるごとに浮世絵が魔法のようにあられ、その確かな伝統と技術に驚嘆の声が寄せられておりました。

さて、その本館所蔵の久世コレクションの図録がミュージアムショップでお求めいただけます。3,000点の久世コレクションを網羅した、浮世絵の資料性の高い内容となっております。お帰りの際はどうぞお立ち寄りください。



(図録)久世重勝氏収集  
浮世絵版画(定価1,800円)

## 次回の展覧会

甲冑と陣羽織(後期) (前田育徳会展示室)

古九谷名品選 (第2展示室)

矢野倫真 水彩画の黄金時代 (第3展示室)

6月22日(木)~7月17日(月・祝)

休館日:6月19日(月)~21日(水)

石川県立美術館だより 第272号

2006年6月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>